



選手代表に団旗を授与する福田富一知事

技能五輪全国大会では、平成27（2015）年に栃木県では初めて高校生（2015）年に栃木県では初めて高校生

と食のおもてなしフェスタ」「ステージショー（ファミリーコンサートや堀優衣コンサート、よさこい演舞他）」などの併催イベントが行われる予定です。

両大会ともに、栃木県からも毎年選手が出場しています。昨年の山形大会では技能五輪全国大会に50人、全国アビリンピックに18人の選手が出場しました。今年は技能五輪全国大会には137人、全国アビリンピックには33人がエントリーしています。開催地ということで人数が増えたというだけでなく、県や関係者が大会PRに力を入れたことで企業や学校からの注目が高くなり、これだけ的大幅増につながったと言つて良いでしょう。

技能五輪全国大会では、平成27（2015）年に栃木県では初めて高校生

「その上で、県の立場では『ものづくり県とちぎのPR』として重要であると認識しています。技能五輪全国大会も全国アビリンピックも、全国から多くの参加者が来県します。選手数だけでも、技能五輪全国大会は約1400人、全国アビリンピックは約400人。来場者はのべ15万人にのぼると予想されます。これは、PRの大きなチャンスです」

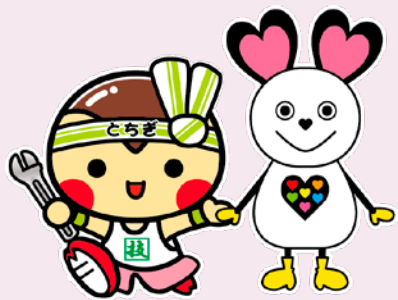
ちなみに県が試算した経済効果は、約25億円。栃木県経済にとつても、大きな価値のある大会と言つていいでしょう。

「また、中小企業の人材確保に結びつくことも見逃せません。意欲ある若者にとつて、就職を考えている企業が技能五輪全国大会や全国アビリンピックに積極的に取り組んでいることは、企業の魅力としてアピールできます。さらに、社員のモチベー

「『応援は皆さんとても熱心です。選手が逆に緊張してしまうほどです。それだけ、見ている人も『自分のこと』として感じてくれているのでしょう』

与えられた課題を時間内にやりとげるために、選手たちは目頃つちかった技術や知識を総動員してがんばります。その真剣さが、応援チームだけでなく見学している人たち全員に伝わり、会場の熱気がさらに高まるそうです。

今年の技能五輪全国大会に、栃木県は



大会マスコットの
とちまるくん(左)とナイチュウ(右)

が参加し、今年は3校、6人が出場します。

この大会を栃木県で開催することで、どのような効果が期待できるのでしょうか。

県産業労働観光部労働政策課の技能五輪アビリンピック推進室・荒井浩己室長は「職業技術の大会に挑戦することで、若者や障がい者の技術・精神力の向上や充実を図ることができます。技術習得のモチベーションとして、技能五輪全国大会や全国アビリンピックというはっきりした目標があることは効果的ではないでしょうか」と話します。

「その上で、県の立場では『ものづくり県とちぎのPR』として重要であると認識しています。技能五輪全国大会も全国アビリンピックも、全国から多くの参加者が来県します。選手数だけでも、技能五輪全国大会は約1400人、全国アビリンピックは約400人。来場者はのべ15万人にのぼると予想されます。これは、PRの大きなチャンスです」

ちなみに県が試算した経済効果は、約25億円。栃木県経済にとつても、大きな価値のある大会と言つていいでしょう。

「また、中小企業の人材確保に結びつくことも見逃せません。意欲ある若者にとつて、就職を考えている企業が技能五輪全国大会や全国アビリンピックに積極的に取り組んでいることは、企業の魅力としてア

ヨシを高め職業技術向上に役立ててもらふことで、企業活力を充実させる効果もあります」

これに加えて、荒井室長は教育効果についても言及しました。

「小学生から高校生に、ぜひ見学してもらいたいですね。会場で真剣に課題に取り組む若者や障がい者の姿を目の当たりにすることで『ものづくりのすばらしさ』『がんばることの大切さ』を知って欲しいと思います。それが、将来の進路選択の時に役立つのではないのでしょうか」

荒井室長は、山形大会など他大会も見学し、会場の熱気に感動したと言います。

「あの真剣な表情には心を打たれます。ものづくりを間近で見ることが、何よりのPRになると感じました。見た人は、きつと感動しますよ。宇都宮市のベルモールで公開練習会を開催した時に、小学生が食い入るように見ている『将来は僕もやりたい』と言ってくれた時には、うれしかったですね」

会場には、出場選手の会社からもたくさんさんの応援が来るといいます。

「応援は皆さんとても熱心です。選手が逆に緊張してしまうほどです。それだけ、見ている人も『自分のこと』として感じてくれているのでしょう」

与えられた課題を時間内にやりとげるために、選手たちは目頃つちかった技術や知識を総動員してがんばります。その真剣さが、応援チームだけでなく見学している人たち全員に伝わり、会場の熱気がさらに高まるそうです。

今年の技能五輪全国大会に、栃木県は

32職種に出場します。中でも注目されるのは、以前の大会でメダルを獲得した種目です。タイル張り（金、銅）やレストランサービス（銅）、電工（銀）、メカトロニクス（銅）、抜き型（銀、銅）など毎年メダル獲得や入賞している種目には、今年も期待が集まっています。また配管には今年は14人が出場しています。個々の選手や企業をバックアップするため、業界団体も支援に力を入れています。

「また全国アビリンピックは障がい者の大会ですが、その技術の高さには驚かされます。『障がい者でもここまでできる』ということを、ぜひ知って欲しいと思います」

最後に荒井室長の「今年への思い」をうかがいました。

「技能五輪全国大会には、都道府県對抗の団体賞があります。開催地でもあり、今年こそは栃木県が受賞してほしいと願っています。

けれども、いちばんの願いは、1人でも多くの県民の皆さんに会場に足を運んでいただくことです。そして選手たちを応援していただきたいと思います」



特集1
技能五輪
アビリンピック

若者に夢を与える職業技術の競技会

「とちぎ技能五輪・アビリンピック2017」（第55回技能五輪全国大会と第37回全国アビリンピック）が、11月中旬から後半にかけて栃木県内で開催されます。若者や障がい者が集って職業技術などを競い合うこの大会は、企業からの注目も集めています。

写真／10月11日に行われた結団式



最初に「技能五輪全国大会」「全国アビリンピック」について、栃木県が発行した総合ガイドブックから紹介します。

職業技術を競う全国大会

最初に「技能五輪全国大会」「全国アビリンピック」について、栃木県が発行した総合ガイドブックから紹介します。

■第55回技能五輪全国大会
11月24日（金）～27日（月）
競技会場 17会場／職種 42職種

◎技能五輪全国大会は、若者技能レベル日本一を競う大会で、将来の日本を支える技能者を育てることや「ものづくり」の大切さを知ってもらうことを目的に開催されます。

◎大会は4日間（うち競技は2日）で行われ、競技に参加できるのは、23歳以下の人です。

■第37回全国アビリンピック
11月17日（金）～19日（日）
競技会場 3会場／種目 22種目

◎全国アビリンピックは、全国障害者技能競技大会のこと、アビリティ（能力）とオリンピックを合わせた造語です。障がいのある方が就職して自立するという考え方を広めるとともに、雇い主や社会全体に理解してもらうことを目的に開催されます。

◎大会は3日間（うち競技は1日）で行われ、競技に参加できるのは、15歳以上の人です。

競技や会場など、詳細は公式サイト（<http://www.tochigi-ginouabirin.jp/>）をご覧ください。



栃木県産業労働観光部労働政策課
技能五輪アビリンピック推進室
荒井 浩己 室長

選手・来場者へのおもてなしも充実

技能五輪全国大会の会場は宇都宮市や小山市、那須塩原市など6市町17会場。宇都宮市はマロニエプラザや宇都宮市体育館、県産業技術専門校、宇都宮青葉高等学校など8カ所。アビリンピックは宇都宮市のマロニエプラザ・宇都宮市体育館・宇都宮青葉高等学校の3カ所が会場です。

両大会の開催とともに、競技だけでなくさまざまな併催イベントがあり、おもてなしにも力を注いでいます。

技能五輪全国大会では「ものづくり体験」「栃木の食と農」「ステージショー（アンパンマンショーや高校生によるファッションショー、AKB48チーム8のスペシャルライブ他）」といったイベントが準備されています。またスタンプラリーも行われ、スタンプ数に応じてプレゼントがもらえます。またアビリンピックでは「障害者ワークフェア」「技



併設カフェ「きょうの森」で接客サービスを実習する生徒たち

生徒の達成感、自信を生み出す

栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園（以下「同校」）は、軽度の知的障がい者の教育を目的として、平成28年4月に開校しました。設立2年目のこの学校から、全国アビリンピックにチャレンジする生徒が出ています。

同校の外谷卓志教頭は「昨年の山形大会にも喫茶サービスの種目で出場、今年

も喫茶サービスとパソコンデータ入力に1人ずつ出場します。また両大会ともに、本校は会場としても協力します。全国アビリンピックでは電子機器組立（正式種目）や製パン加工（デモンストレーション）、福祉部門のベッドメイキング（デモンストレーション）が行なわれます」と説明します。

「本校は、昨年の開校から全国アビリンピックも視野に入れて指導しています。本校は職業的な自立を目指した教育を推進しますので、アビリンピックの目的と共通するところがあります」

職業的自立を目標に掲げた支援学校は、栃木県では同校が初めてです（他の特別支援学校では普通科の勉強にプラスして職業教育を実施しています）。その意味で、地域の期待を担った学校と言えるでしょう。

「全国アビリンピックへの参加は生徒にとって、達成感を味わい、自信を持てるようになる大きなチャンスです。生徒は、努力が認められることや自信をつけることによって自己肯定感も高まり、大きく伸びることができま

す。入賞すれば、さらにプラスになります」

外谷教頭は、全国アビリンピックに参加す

全国アビリンピックを就労のチャンスに

Organization Name

宇都宮青葉高等学園



とちぎ技能五輪・アビリンピック2017

参加企業・団体紹介

PARTICIPATION

技能五輪全国大会が若者に夢を与える

「私どもでは平成25年から毎年、技能五輪全国大会に参加しています」と話すのは、当所会員の㈱田中工業の田中英治社長です。

空調設備や衛生設備、水道施設工事を手がける同社は、配管工事が重要なコア技術のひとつです。ですから同社の技能五

輪全国大会参加の職種は「配管」で、今年は4人がエントリーしています。

「私どもでは以前から県立宇都宮工業高校等の卒業生を採用していますが、先生から『ぜひ、技能五輪全国大会に参加させてあげてください』と頼まれました。私も、若者に夢を与えることができる会社をめざしていますから、希望者を参加させることにしました」

田中社長は、建設業全体の問題として3Kのイメージがまだまだ強いことを指摘します。

「せっかくすばらしい若者が建設企業を志望してくれているのに、保護者が『きつい仕事だから、やめなさい』と止めてしまうケースもあります。大変残念です。そういうイメージをくつがえし、若者が希望を持つて働くことのできる業界、企業にしていかななくてはいけないと思っています。その一環として技能五輪全国大会は有効です。社員のモチベーションを上げるとともに、外部からの評価向上の効果も期待できます。有能な若手人材確保は、企業にとって重要ですからね」

実は、今回出場する4人のうちの1人、

工事部の碓尚也さんは、田中工業に就職した動機のひとつが「技能五輪全国大会に積極的だから」でした。

高校時代にも技能五輪全国大会に出場していた碓さんは、インターンシップで田中工業に来て「この会社の持つ魅力を強く感じました」と言います。その魅力の一つが、技能五輪への取り組みだったそうです。

「入社1年目で、まだまだ仕事を覚えるのが精一杯ですが、その合間を縫って技能五輪のための練習を重ねています。会社が可能ながきりサポートしてくれるので、ありがたいです」

田中社長は「本当はもっと集中して練習させてあげたいのですが、当社も業務に余裕があるわけではないので難しいところです」と話しますが、参加する選手のために練習スペースを確保し、指導する係もつけ、さらに練習用資材も提供しています。

碓さんは「技能五輪全国大会に出ることで、自分を高めることができます。それを仕事に生かせると考えています」と笑顔で話します。

がんばり抜く経験が仕事に活かされる

技能五輪全国大会への参加とひとくちに言いますが、職種によっては練習用の資材も不可欠ですから、気持ちだけで気軽に参加できるものではありません。

「当社でも、1人あたり年間相当額の費用がかかります。ですから、行政や業界団体からの支援、補助は不可欠だと思います。

る意義を、そう強調します。

企業の人たちもぜひ見学応援を！

同校には「きょうの森」というカフェがあります。ここでは生徒たちがパンや飲み物を買っています。カフェなので、もちろん一般の人が客として来店し、コーヒーや紅茶などを味わいながら時間を過ごす姿も見られます。

ここで販売されるパンは、授業の一環で焼いた手造りパンです。季節限定や曜日限定の商品がほとんどで、価格も安いいため、地域の人たちから愛される店になっています。

高等部主事の木戸朋子教諭は「本校は軽度の知的障がいがある生徒の職業的自立・社会参加の促進が目標ですから、このように地域に開かれた店舗も大きな役割があります。特にコミュニケーション能力を大きく伸ばすことにつながります。この店舗で実践体験を積むことにより、全国アビリンピックの『喫茶サービス』種目に向けて自信をつけることもできます」と話します。

「全国アビリンピックでは、障がいのある人や一般の人がお客様役で参加します。イレギュラーなこともたくさんありますから、事前に経験を積むことが重要ですね」

同校ではさまざまな職業教育を行っています。その多くに企業アドバイザーが助言者として関わっており、より実践的な職業教育を可能にしています。

木戸教諭によれば「喫茶サービスには、オトワレストランのスタッフが接客アドバイザーとして入ってくださっています。他の科目も、それぞれ県内の各種企業の方がサポー



株式会社田中工業
取締役社長 田中英治さん

幸い配管については、さまざまな支援をいただいております。それがあからこそ私どもも毎年参加することができます」

1社だけの努力ではなく、業界全体や行政も取り組むことが、不可欠と言えるでしょう。ではそのメリットは？

「碓君のように、向上心のある若者が『技能五輪全国大会に積極的な企業だから』という理由で、中小企業をめざしてくれるようになります。若者に夢を与えることのできる企業、業界になることは、非常に重要だと思います。業界全体の地位向上にもつながります」

さらに参加する本人にとっても、自分の技術技能レベルを認識することで、それを高めるために努力するすばらしさも体得できます。結果を出すために必死で挑戦する体験は、必ず仕事につながる——田中社長はそう考えています。

「もちろん、応援も行きます。ただ、あんまり派手にやると選手が緊張してしまつて逆効果になりかねませんから、難しいところですね」と話す田中社長ですが、当日は出場した社員たちの活躍を、目を細めながら見守ることでしょう。

トしてくださっています」とのこと。

外谷教頭は「栃木県は知的障害特別支援学校高等部卒業者の就職率は比較的高いので、その分県民からの関心も高いと言えるでしょう」と話します。「私もはまだ2年目の学校ですが、県民の期待に応えられる教育に取り組んでいきたいと考えています」

木戸教諭も「2人ひとりに合った指導を通して、それぞれが自分に合った職業を見つけ、自信を持つて働くことができるようにしたいと思います」と言います。

障がい者雇用は、国全体がテーマに掲げている課題です。そういう点でも、全国アビリンピックへの参加は重要です。障がい者の能力を知り、雇用へつなげるチャンスになるからです。

「企業の皆さんには、ぜひ全国アビリンピックに来て、選手の素晴らしい能力を見てほしいと思います」（木戸教諭）

「今後、徐々に参加種目も増やしていくつもりです。それには私たちの教育も、どんどんレベルアップしていかななくてはと考えています」（外谷教頭）



宇都宮青葉高等学園
外谷卓志教頭(右)と
高等部主事・木戸朋子教諭(左)